

TOKYO

MICE テクノロジー

導入ガイドライン



## はじめに

本ガイドラインでは、東京で開催するMICE\*の効率化や新しい価値創出に繋がるとともに、高齢化や生産年齢人口減少といった我が国が抱える社会課題への対応、東京都が今後も取り組むべきD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)やサステナビリティの推進に資するテクノロジーに着目し、MICEでの活用方法を示すことで、次世代型のMICE開催のあり方を「東京モデル」として国内外に発信する事を目的としています。

本ガイドラインでは、東京でMICEを開催する主催者の皆様に向けて、今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野を紹介しています。さらに、公募により選定された15のテクノロジーとその活用のイメージを掲載しています。

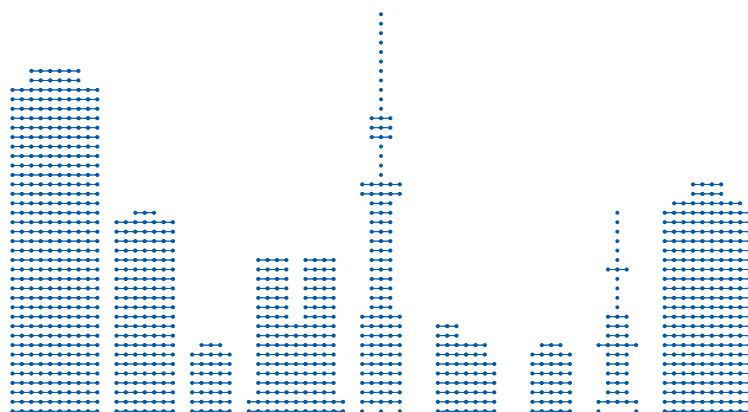
そして、本ガイドラインの策定とともに、先端テクノロジーを活用したMICE開催に対する助成制度も新設しますので、あわせて申請をご検討ください。

なお、本ガイドラインの内容は、今後の動向等を踏まえて適宜更新する予定です。皆様の東京でのMICE開催の価値を最大化するために、本ガイドラインを積極的に活用されることを願っています。

※MICEとは、M: Meeting(企業系会議)、I: Incentive(企業の報奨・研修旅行)、  
C: Convention(国際会議)、E: Exhibition/Event(展示会・イベント等)の頭文字をとった総称

### 目次

本ガイドラインで紹介するテクノロジーの一覧	P.2
各テクノロジーの紹介ページの記載事項	P.4
テクノロジーの実装イメージ(01~15)	P.5
各テクノロジーの紹介ページ	P.7
このようなお悩みをお持ちの方は・・・	P.22



## 本ガイドラインで紹介するテクノロジーの一覧

下表では、今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野を、活用が想定されるシーン別にまとめています。公募により選定された15件のテクノロジー(01~15)については、7ページ以降に詳細情報を掲載しています。

a~hについては、次のページのテクノロジーの簡易概要をご参照ください。

運営サポート	01 プログラム一元管理	a 会議運営データ管理システム	
入退場管理	02 顔認証入場管理	b セキュリティチェック (異常行動感知)	
登録受付・会場案内	03 遠隔案内	04 AI案内	
式典・レセプション での活用	05 3D表示システム	c インタラクティブ・コンテンツ (プロジェクション・マッピング等)	
	d 配膳ロボット		
セッションでの活用	06 音声多言語化・文字化		
	e メタバース会議場	f テレプレゼンス	
展示での活用	07 展示会場誘導ロボット		
	08 混雑状況可視化	09 人流解析	
	10 メタバース展示場		
	11 遠隔商談	12 XRプラットフォーム交流	13 オンライン・リアル間の コミュニケーション
観光／視察支援、 周辺サービス	14 MaaSプラットフォーム	g 地域観光誘客システム	
	h オンライン視察	15 空間演出	

## テクノロジーの簡易概要 (a~h)

<b>a</b> 会議運営データ管理システム	国際会議の事務局業務を一気通貫で支援するテクノロジー。講演者や参加者、スポンサー等の事前管理と開催中の管理（登録受付、論文、セッションの入場管理、電子投票等）の機能を高度に統合したシステムで事務局業務をバックアップする。
<b>b</b> セキュリティチェック (異常行動感知)	会場に設置した防犯カメラの映像をAI技術で解析することで、異常行動や異物を感知し、会場内のセキュリティを確保するテクノロジー。
<b>c</b> インタラクティブ・コンテンツ (プロジェクション・マッピング等)	AIによる映像解析や各種センサーで人の動きや視線を検知し、その動きに応じて映像を変化させるプロジェクション・マッピングなどインタラクティブな要素を含むコンテンツ。屋内外のレセプション会場等をライブで演出する。
<b>d</b> 配膳ロボット	LiDAR <sup>*1</sup> などのSLAM <sup>*2</sup> （自己位置推定と環境地図作成を同時に行う）技術を活用することで単発のイベントでも自律走行を可能とし、飲食物などの配膳や運搬を行うロボット。 <small>※1 Light Detection And Ranging ※2 Simultaneous Localization and Mapping</small>
<b>e</b> メタバース会議場	国内外の会議参加者が数百名以上集まり、口頭発表やポスター発表、それらの聴講や質疑応答などを可能とし、リアル開催との併用が可能なメタバース空間システム。
<b>f</b> テレプレゼンス	ロボットやディスプレイ、CG（コンピュータグラフィックス）表示など様々なシステムを活用してオンライン参加者をリアル会場に参加させることで、遠隔地のメンバーとその場で対面しているかのような臨場感を提供するテクノロジー。
<b>g</b> 地域観光誘客システム	催事の公式ホームページやアプリ、運営サポートのためのシステムと機能を統合し、開催地周辺エリアの観光情報やクーポンの入手、飲食施設の予約や決済などを一元的に提供するテクノロジー。MICE参加者に食事やショッピング、観光等を楽しんでもらうための機能を有する。
<b>h</b> オンライン視察	AIによる超解像技術を活用し、360度視点かつ高解像度でリアルな映像配信を可能とした機能を有するロボットなどで遠隔参加を支援し、工場や事務所内部など通常は入場困難なところのライブ視察や現地との質疑応答も可能とするテクノロジー。

## 各テクノロジーの紹介ページの記載事項

今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野についてより具体的にイメージしていただくため、7ページからは、公募により選定された15のテクノロジーについて、特徴、利用者視点による活用フロー、テクノロジーの価格感、前提条件等を概説しています。なお、いずれのテクノロジーも英語対応が可能です。

### テクノロジーの特徴

各テクノロジーのページ冒頭にテクノロジーの利用シーンを掲載しています。テクノロジーの特徴を概観する際は「テクノロジーの概要」欄を御覧ください。

### 「準備」「開催中」「開催後」の各段階についての活用フロー

主催者の皆様がMICEの「開催中」にテクノロジーを活用する場合、「準備」の段階での事前の調整や、「開催後」の段階での取得データ結果のフィードバックが必要な場合があります。各テクノロジーの「活用フロー」欄では、「準備」「開催中」「開催後」の段階ごとに、テクノロジー活用に係る実施事項や効果・特徴\*を掲載しています。

### 留意事項 1 | 「テクノロジーの価格感」について

テクノロジーを活用するために要する金額は、催事の規模(面積、展示ブースの数、講演・セミナーの数、参加者数等)に応じて大きく変動するため、各テクノロジーの紹介ページでは、右掲の規模で催事を行った場合にかかる目安の金額をお示ししています。一部のテクノロジーでは機器単体の金額となっていますので、ご注意ください。

#### 想定する催事の規模



講演・セミナー会場10会場、  
展示ブース50コマ、  
参加者数3,000人



表彰式・レセプション会場、  
参加者数2,000人



展示ブース250コマ、  
講演・セミナー10回、  
参加者数10,000人

### 留意事項 2 | テクノロジー活用の「前提条件」について

活用するテクノロジーによっては、安定的なサービス提供のため、催事を行う会場内に従来より高速なネットワークが整備されている必要があります。また、来場者がスマートフォンやタブレットをお持ちでなければ活用範囲が狭まる場合があります。そのため、各テクノロジーの紹介ページでは、主催者の皆様が活用する際に抑えておくべき前提条件を掲載しています。特に、推奨通信環境はテクノロジーにより仕様が異なり、通信ネットワークの整備状況は会場によっても大きく異なりますので、ご注意ください。

※効果・特徴は、特定個社のサービス・アプリケーションの概要を踏襲しつつ、当該分野に関する同種のテクノロジーを活用することによって期待される効果(直接的効果のみならず、少なからず間接的に寄与するとも考えられる効果も含める)についても記載しています。テクノロジーの具体概要や効果については、提供事業者への問合せにより確認ください。

# テクノロジーの実装イメージ(01~15)

オンライン開催でも臨場感を高めるために…

**10** ~メタバースイベントプラットフォーム~  
**メタバース展示場**

ハイブリッド開催でも交流を促進するために…

**11** ~テレプレゼンスアバターロボット~  
**遠隔商談**

**12** ~XRプラットフォーム~  
**XRプラットフォーム交流**

**13** ~リアルタイムコミュニケーションサービス~  
**オンライン・リアル間のコミュニケーション**

東京の街を快適に楽しんでもらうために…

**14** ~MICE x MaaS: Tourism Platform Gateway (TPG)~  
**MaaSプラットフォーム**

演出の一環として…

**15** ~極微細ミスト~  
**空間演出**

過度の混雑を解消するために…

**08** ~AIカメラ~  
**混雑状況可視化**

よりよい開催のために…

**09** ~Wi-Fiプローブ~  
**人流解析**

開催準備を効率化するために…

**01** ~スマートカンファレンス~  
**プログラム一元管理**

受付で来場者の方をお待たせしないために…

**02** ~入退場管理~  
**顔認証入場管理**

効率的にご案内するために…

**03** ~受付対応ロボット~  
**遠隔案内**

**04** ~AI活用遠隔有人案内サービス~  
**AI案内**

Wowを演出するために…

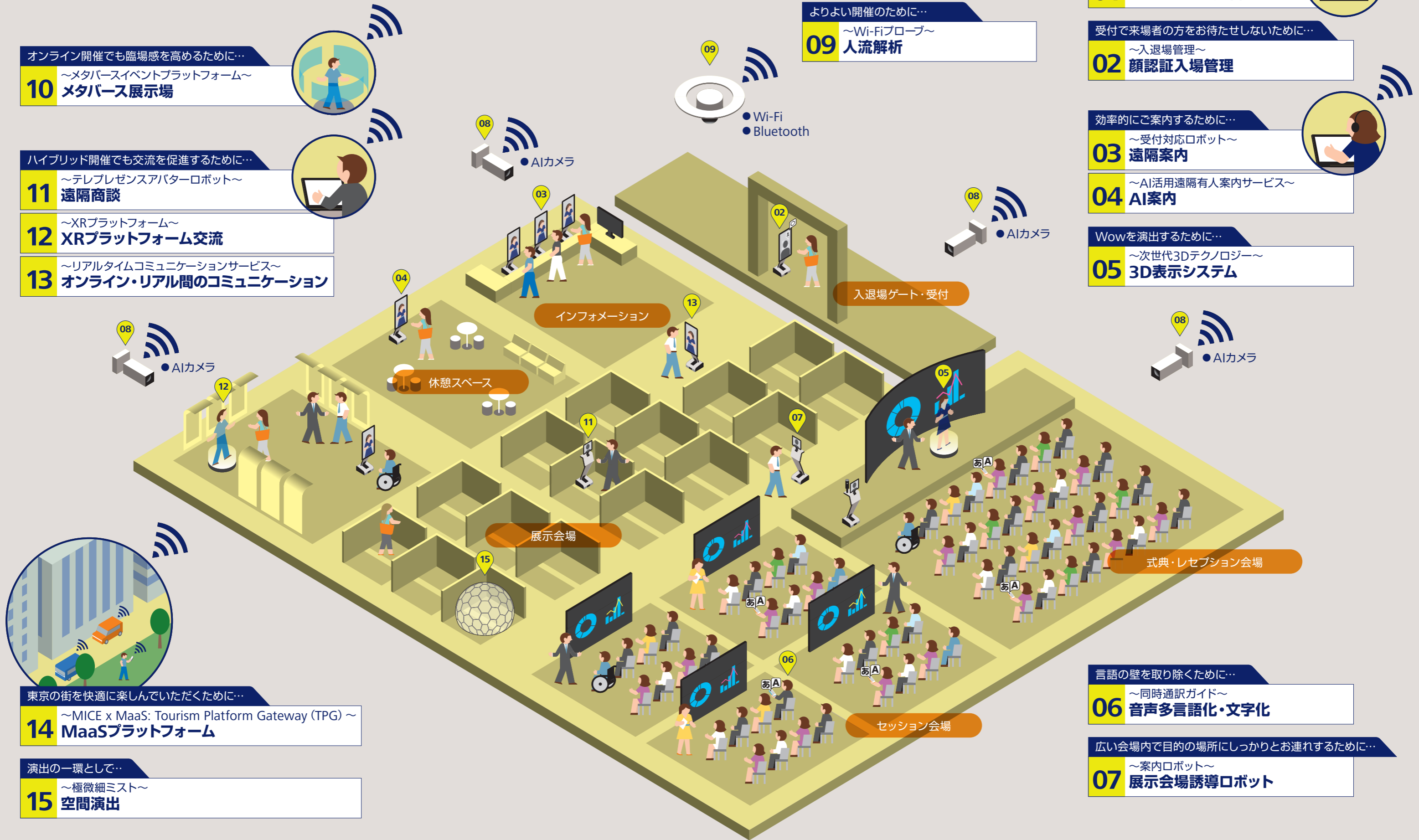
**05** ~次世代3Dテクノロジー~  
**3D表示システム**

言語の壁を取り除くために…

**06** ~同時通訳ガイド~  
**音声多言語化・文字化**

広い会場内で目的の場所にしっかりとお連れするために…

**07** ~案内ロボット~  
**展示会場誘導ロボット**

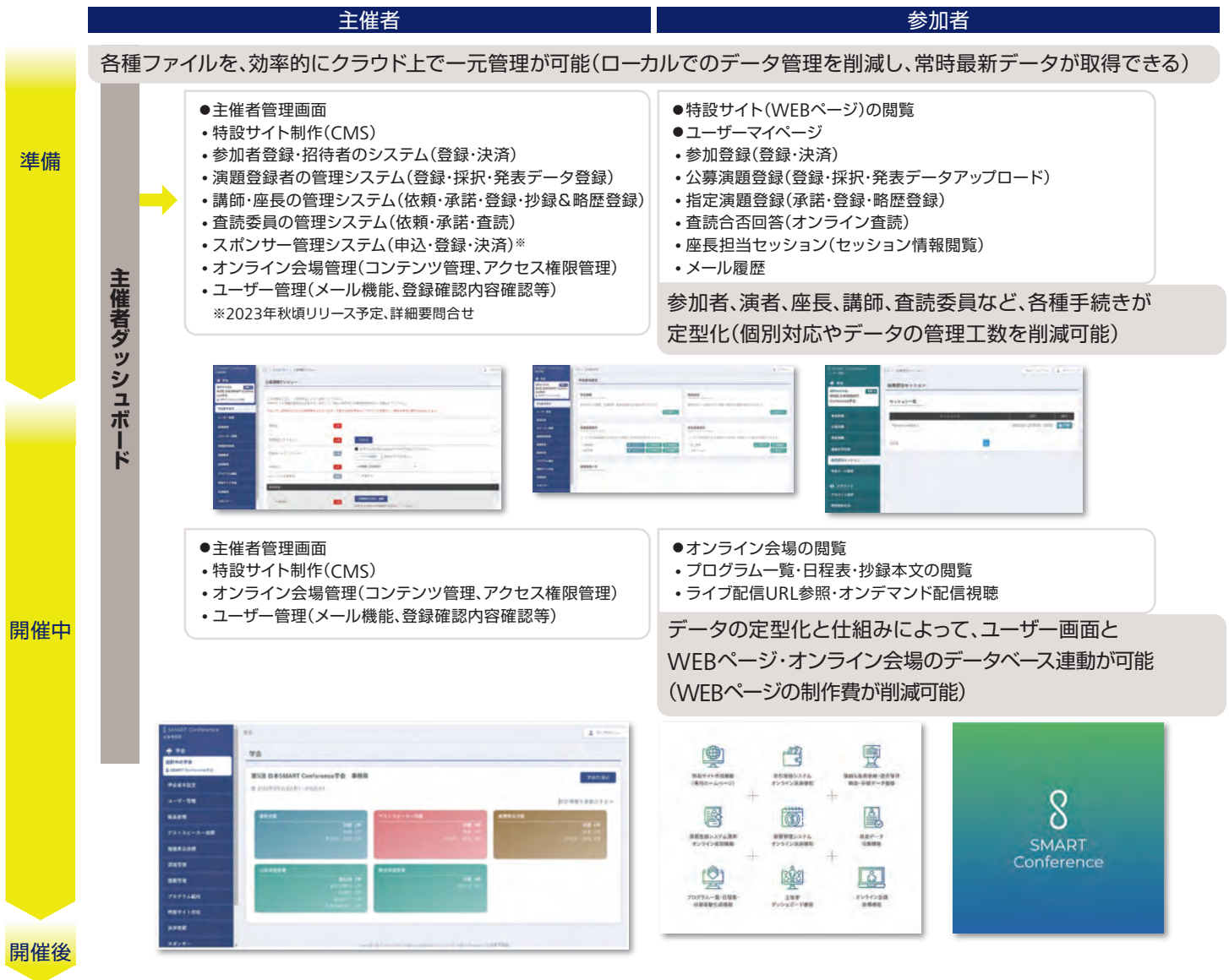


事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用 観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

- 学会の事務局業務から特設サイト開設までをワンパッケージにした、学会の一元管理システム。
- 学会に係るヒトやコンテンツの管理(各種依頼、受領、承認等)を、クラウド上で定型処理可能なため、手作業によるミスの最小化、工数削減が可能。
- ハイブリッド開催に向けたオンライン会場構築の機能も具備しており、そのコスト(金銭・工数)も削減可能。

## 活用フロー



## 前提条件

内訳：参加者数3,000名・演題数1,200でオンライン会場を使用し、導入サポートをうけた場合

\*画面設計、運用、事務局人件費等は価格に含まない。

推奨通信環境：10Mbps以上

その他：【対応デバイス】ユーザー画面：iPhone、Android Phone、PC | 主催者管理画面：PC

【ユーザー画面対応ブラウザ】

PC版：Edge最新版、Chrome最新版 | iOS版：Safari最新版 | Android版：Chrome最新版

【主催者画面対応ブラウザ】

PC版：Edge最新版、Chrome最新版

## テクノロジーの価格感

700万円

## 提供事業者

株式会社PCO(ピーシーオー)

担当：デジタル事業部

メールアドレス：smcon@pcojapan.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理	式典・レセプションでの活用
	登録受付・会場案内	セッションでの活用
		展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

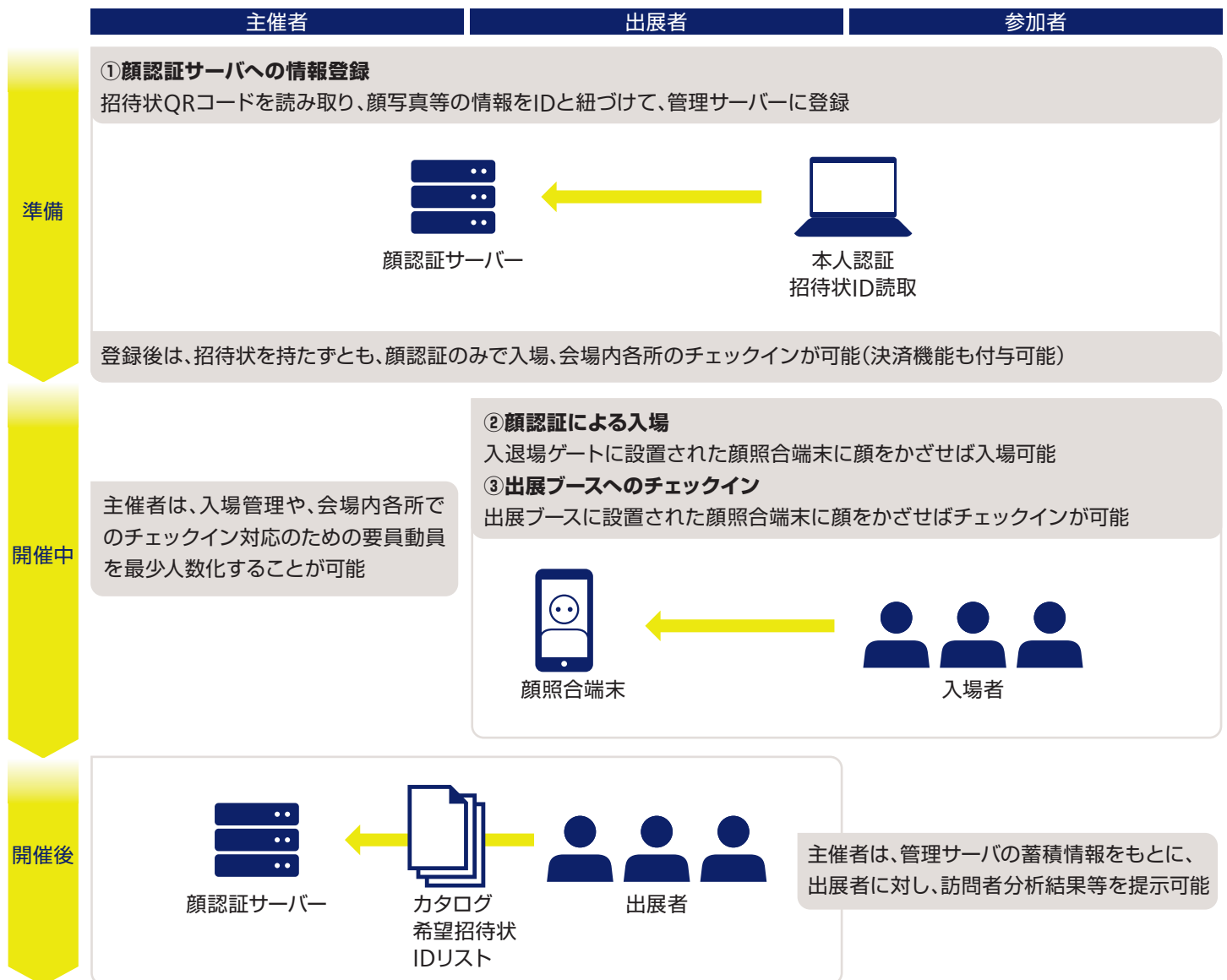
～入退場管理～

## 顔認証入場管理

## テクノロジーの概要

- 顔認証を活用した、セキュアかつ手ぶら利用可能なセキュリティゲートを実現。
- 登録した顔情報にて、入場、出展ブースでのチェックイン等複数の利用シーンで顔認証が可能。
- 本テクノロジーを導入することで、主催者は、入場管理や訪問履歴ログによる情報提供業務を効率化することが可能。

## 活用フロー



## 前提条件

内訳：招待状ID(QR読込)紐付け顔情報登録アプリ(1式)、顔登録端末(20台)、顔入場端末(20台)、展示ブース(顔チェックイン端末50台)、顔登録人数(3,000人)、利用期間(1か月以内)

※顔登録人数と利用期間によって金額変動

- \* 入場ゲート、入退システム、電子錠関連、通信環境構築費、電源工事費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。
- 推奨通信環境:無線LAN(2Mbps以上)
- その他:パスポート・マイナンバーカード本人確認による顔登録機能も開発を検討中。価格は要相談

## テクノロジーの価格感

1,500万円

## 提供事業者

パナソニックコネクスト株式会社

担当：パブリック営業本部

営業4部 営業1課 織田

メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

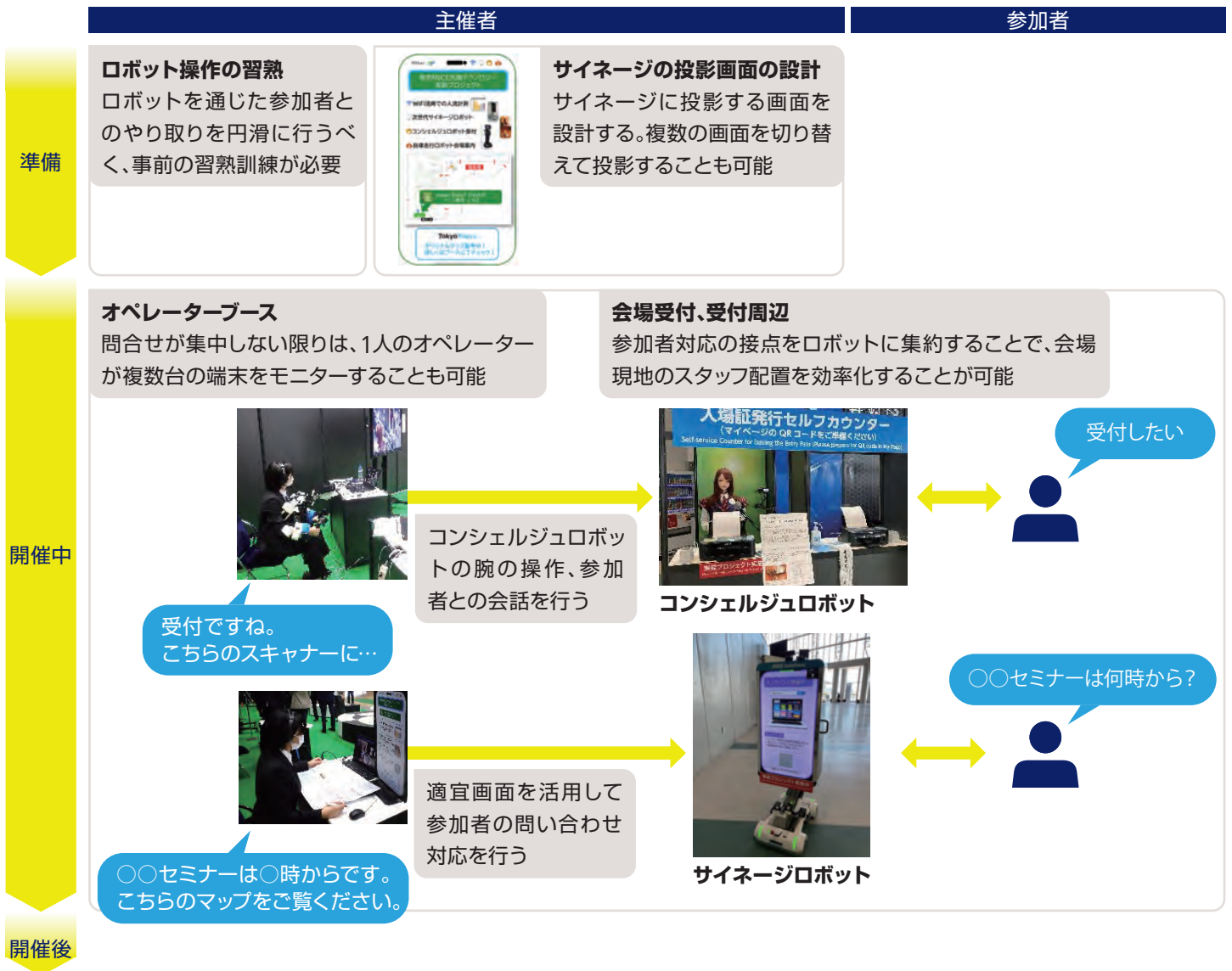


事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用 観光／視察支援、周辺サービス

### テクノロジーの概要

- 会場受付やその周辺において、サイネージを搭載した自走型ロボットで参加者へ情報掲示を行ったり、遠隔オペレーターと参加者間の双方向の会話を通じた各種問合せ対応を行うことが可能。
- 会場内に複数設置した場合でも、オペレーターは遠隔で各端末に接続することになるため、多言語対応のスタッフ等の人数を削減するなど、効率的なスタッフ配置を検討することが可能。

### 活用フロー



### 前提条件

内訳：ロボットレンタル費用(現地設置日から撤収日までの1日当たりの参考価格)  
 \* 輸送費、現地調整費、設置スタッフ費用、遠隔オペレーター人件費、通信環境構築費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。  
 ● 推奨通信環境:無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

### テクノロジーの価格感

コンシェルジュ：1台当たり 40万円/日  
 サイネージ：1台当たり 40万円/日

### 提供事業者

THK株式会社 サービスロボット事業部  
 担当：小林久朗  
 メールアドレス：hi.kobayashi@thk.co.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理	式典・レセプションでの活用
	登録受付・会場案内	セッションでの活用
		展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

### テクノロジーの概要

- サイネージによる施設・観光案内を実現し、インフォメーションの省人化に寄与。
- アバターが案内を実施、簡単なQAはAIが回答し、難しいものは遠隔による有人応対が可能。

### 活用フロー

主催者	出展者	参加者
-----	-----	-----

準備

主催者は、本催事で想定される質問とその回答を施設案内、観光案内の観点を事前に作成  
施設、講演、セミナー、観光案内用の資料を電子化  
アバターのコスチュームはデザインを自由に変更可能

出展者は、ブースの図面提供、出展内容資料を電子化

参加者

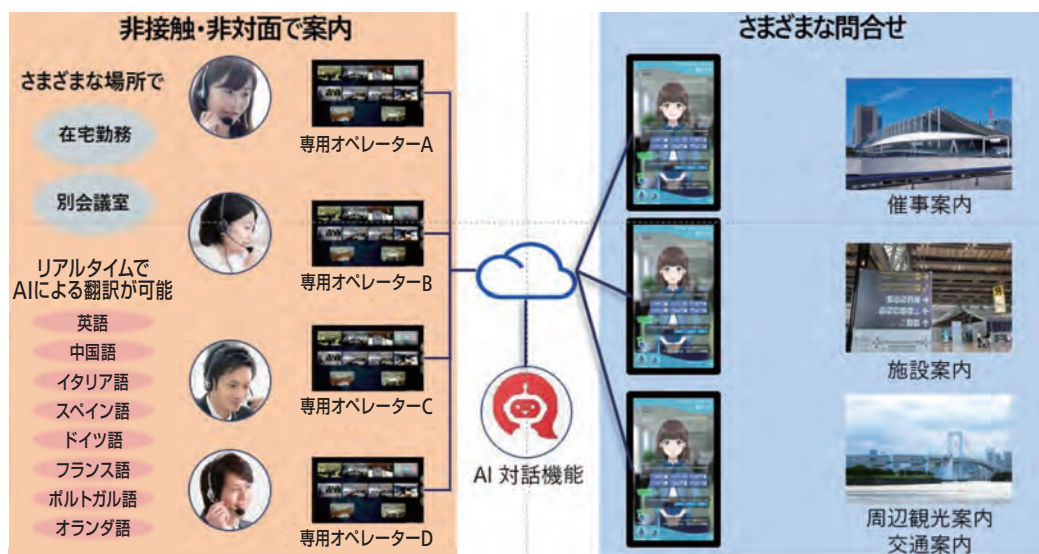
主催者

参加者

- 簡単な問い合わせはAIが自動的に回答し、複雑なものはオペレーターが遠隔操作で有人応対
- アバターを介した非対面・非接触の接客対応により、安心・安全な案内業務が可能

- 双方向のリアルタイム翻訳機能により、オペレーターの言語スキルを問わず多言語（8言語）対応が可能
- 1人で複数台を操作できるため、必要人数の省力化に寄与するほか、在宅勤務など、場所を選ばずに応対業務が可能

開催中



開催後

### 前提条件

- 内訳：案内用受付端末(9台)、オペレータ端末(3台)
- \* 利用期間(準備期間含め2週間以内)
  - \* 開催時における保守対応あり(予備機:受付端末1台、オペレータ端末1台)
  - \* 利用期間中のコンサル対応、オペレータ要員、通信環境等は価格に含まない。
  - 推奨通信環境:無線LAN(2Mbps以上)

### テクノロジーの価格感

1,000万円

### 提供事業者

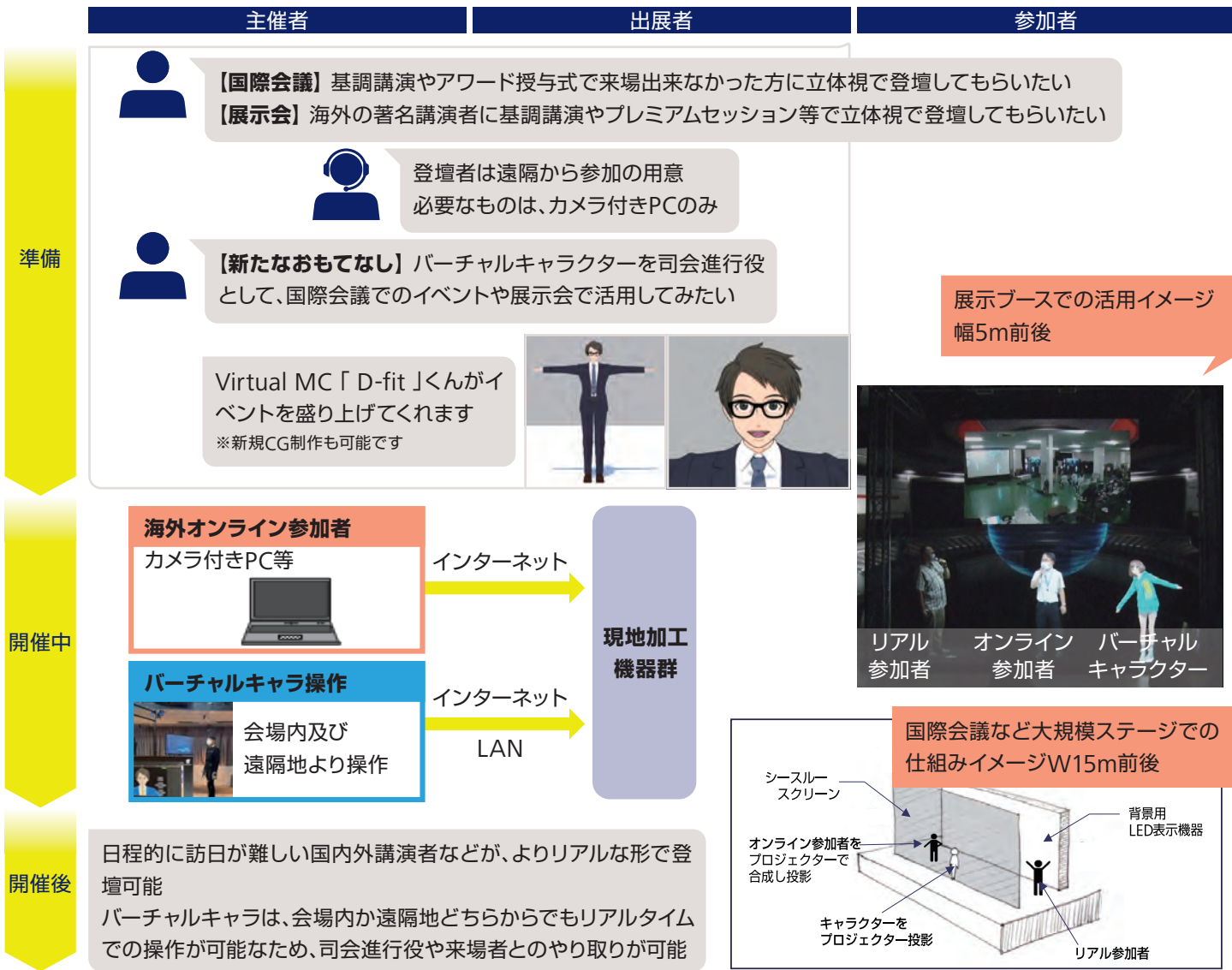
パナソニックコネクスト株式会社  
担当：パブリック営業本部  
営業4部 営業1課 織田  
メールアドレス：  
oda.h@jp.panasonic.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用 観光／視察支援、周辺サービス

### テクノロジーの概要

- オンライン登壇者をリアル空間に立体視投影することが可能。
- 海外の著名登壇者や授賞者を目の前に登場させることで、臨場感のあるステージを構築。
- パーチャルキャラクターの3次元化も可能であり、多彩なステージを実現。

### 活用フロー



### 前提条件

- 内訳： 初期費用、既存キャラクター利用費、基本システムレンタル費、技術オペレーター人件費、キャラクターパフォーマンス人件費、準備期間中の人件費(4か月以内)
- \* 演出構成費、映像表示装置レンタル費(本システムとの併用可能)、新規オリジナルパーチャルキャラクター制作費(1体100万円～)、利用期間中及び事後展開のコンサル費、オンラインプラットフォーム利用料は価格に含まない
  - 推奨通信環境:通信環境構築(インターネット回線10Mbps以上)
  - ブースなど舞台以外での導入の場合、ブースバックヤード内に機器設置スペース(3m×5m程度)を確保する必要有

### テクノロジーの価格感

- 300万円～
- \* 展示ブースでステージ幅5mまで  
既存キャラクター活用の場合
- 2,000万円～
- \* ステージ幅15mまで既存キャラクター活用の場合

### 提供事業者

株式会社レイ(共同企画：株式会社ICT、株式会社ディーフィッツ)  
担当： イベント事業本部 紺井  
メールアドレス： multiverse@ray.co.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～同時通訳ガイド～

# 音声多言語化・文字化

## テクノロジーの概要

- 通訳・字幕のサービスが一体に！ユニバーサルデザイン・SDGs対応を簡単に実現。
- シーンや予算に合わせて、言語数、通訳者派遣かAIの自動通訳か、オンサイトかリモートか、など柔軟に選べる。
- 大規模イベントでも参加者のスマホが活用でき専用機の貸出不要！Withコロナ時代に安心して使える。

## 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会場にインターネット環境が必要</li> <li>● 情報提供の方法を選択               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマホによる音声ガイドは必要か</li> <li>・ 字幕を使う場合はその映し方(スマホ・会場スクリーン)</li> </ul> </li> <li>● 言語ごとに以下を選択               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通訳者が良いか自動通訳技術が良いか</li> <li>・ 速記者が良いか音声自動認識技術が良いか</li> <li>・ 通訳者、速記者は現地派遣かリモート対応か</li> </ul> </li> </ul>		参加者は音声ガイドを使うならスマホが必要
開催中	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報配信はiPadを活用 現地の音響機器と接続するだけ</li> <li>● 参加者への告知(ポップ・チラシ・投影・アナウンスなど)</li> </ul>		参加者はポップ・チラシ・案内ページ等から音声・字幕ページにアクセス
開催後	<p>話者の音声をリアルタイム認識・変換AIによる多言語化</p> <p>会場スクリーンに字幕を表示したり・・・</p> <p>参加者のスマホに通訳音声や字幕を配信できる</p> <p>字幕</p>		

## 前提条件

利用シーン： 講演・セミナー会場10会場、8時間のイベント、参加者数3000人のうち10%が利用と想定

※1 ユーザーへの配信なし(音声は会場スピーカーからのみ、字幕は会場スクリーンへの字幕投影のみとする、など)

※2 ユーザーへの配信あり(通訳音声や多言語字幕をユーザー端末に配信する場合)

内訳： システム利用料(会場数、想定利用者数、利用時間で変動。言語数は問わない)  
通信環境構築費、iPad等の機材費、コンサル費、開催時におけるエンジニア対応、通訳者派遣費等は価格に含まない。

- 推奨通信環境：無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

## テクノロジーの価格感

20万円～/日 ※1

32万円/日 ※2

## 提供事業者

SoundUDコンソーシアム(ヤマハ株式会社内)  
メールアドレス：  
soundUD-consortium-ML@music.yamaha.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

～案内ロボット～

## 展示会場誘導ロボット

### テクノロジーの概要

- 会場内において、自律移動型ロボットを活用することで、会場内各所への誘導案内を行うことが可能。
- 予めロボットに走行ルートを学習させれば、障害物や人を避けて、安全に目的地まで移動することが可能。
- 会場スタッフの案内業務の工数圧縮ができるため、他業務への工数振り分けが可能。

### 活用フロー

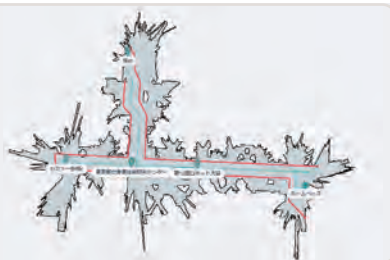
主催者	出展者	参加者
-----	-----	-----

#### 目的地とすべき場所や走行ルート範囲の検討

適宜出展者との協議を行い、ロボットに学習させるべき目的地の場所を定める(複数箇所可能)  
その上で、大まかな走行ルート範囲を定める

#### ロボットへの走行ルート学習を実施

会場内のブース設営等が概ね済んだ時点で会場内でロボットを動かし、ロボットへの会場内のマップ及び走行ルートの学習作業を行う



準備

主催者	参加者
-----	-----



#### 目的地を指定

参加者が、行きたい場所をロボットへ指示  
(画面上でタッチして設定)



○○のブースへ行きたい



#### ロボットが参加者を目的地まで誘導案内

ロボットが障害物や人を避けて、安全に目的地まで移動し、参加者を誘導案内



開催中

開催後

### 前提条件

内訳：自立移動型ロボット(temi)1か月レンタル費用  
temi centerとtemi有料アプリbuddybot(任意のタイミングで言語を切り替えることができ、複数言語でも均質の案内サービスを提供する/サービス利用記録を外部記録台帳にリアルタイムで記録するソフトウェアライセンス料)、設定経費、現地エンジニアによる設定・トレーニング費用含む

- \* 通信環境構築費、保険、電源の造作工事等は別途
- 推奨通信環境：無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)
- \* temi本体のレンタルは個別見積
- \* ロボットに発話させるセリフは運営者より提供されること(対応言語分)
- \* 表示する画像コンテンツは運営者より提供されること

### テクノロジーの価格感

36万円  
※目安額であるため、個別問い合わせ要

### 提供事業者

株式会社大塚商会  
担当：インサイドビジネスセンター  
メールアドレス：  
INSIDE-ROBOT@otsuka-shokai.co.jp  
電話：0120-767-203 (平日9:00～17:30)

## 混雑状況可視化

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

### テクノロジーの概要

- ネットワークカメラの映像から人の頭部や全身を検知・認識し、リアルタイムで対象エリアの混雑状況を計測。
- 各エリアの混雑状況をリアルタイムに把握できるため、感染症対策として来場者の誘導等に活用可能。
- ディスプレイやサイネージ等と連携も容易であり、喫煙所、休憩所の混雑状況の告知、無人での誘導も可能。

### 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<p>会場内にネットワークカメラを設置 (汎用のもので可)</p> <p>ネットワーク回線を敷設し、ネットワークカメラを混雑状況可視化アプリケーションに接続</p>		
開催中	<p>人の頭部をカウントする方式のため、屋外など人と人が重なり合う密集した状態でも、より正確な混雑状況を検知 同時に1,000人を超える人数でも計測可能</p> <p>混雑状況は、ダッシュボードでいつでも確認可能</p> 	<p>WebAPIを連携すれば、サイネージや大型ビジョン、参加者のスマートフォンアプリ等への表示も可能</p> 	 <p>表示画面イメージ</p>
開催後	<p>人流データを活用することで、講演時間、ブース位置等による集客力の違いを可視化 ブースの位置決めなど、次回以降のマーケティング等に活用可能</p>		

### 前提条件

- 内訳：標準カメラ、カメラ三脚、混雑状況可視化利用料、準備期間料(利用期間5日間の場合のカメラ1台当たりの費用)
- \* 通信環境構築費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。
  - 推奨通信環境:無線LAN(詳細確認中)

### テクノロジーの価格感

カメラ1台毎：60万円  
\* 会場規模、会場数によりカメラ機種・台数は変動します。

### 提供事業者

パナソニックコネクト株式会社  
担当：パブリック営業本部  
営業4部 営業1課 織田  
メールアドレス：  
oda.h@jp.panasonic.com

## ～Wi-Fiプローブ～ 人流解析

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

### テクノロジーの概要

- 電子タグ、ビーコン等の無線技術を利用し、VIPや来場者などの行動履歴を把握することができるテクノロジー。
- <1. Wi-Fiプローブ>Wi-Fiプローブ(Wi-Fi対応のスマートフォン等が周辺のアクセスポイントを検索するために発信される信号)の情報を用いて、リアルタイムで会場内の来場者の人数・混雑状況の把握が可能。主催者が入場制御等の対応を実施するための判断材料として活用することに期待。また同一のスマートフォン端末が複数のアクセスポイントで検知されることで回遊状況や滞在時間の分析が可能であり、ブース配置や案内の検討が可能となる。
- <2. Bluetoothベースの高精度測位技術(Quuppa)>会場全体あるいはブースの天井等に「ロケーター」を複数設置しておけば、「専用タグ」を持った人やもののブースや会場内での移動状況を捕捉可能。そのため、ブースや会場内での展示物やスタッフ配置のオペレーション改善の検討材料として活用することに期待。

### 活用フロー

#### 1. Wi-Fiプローブ

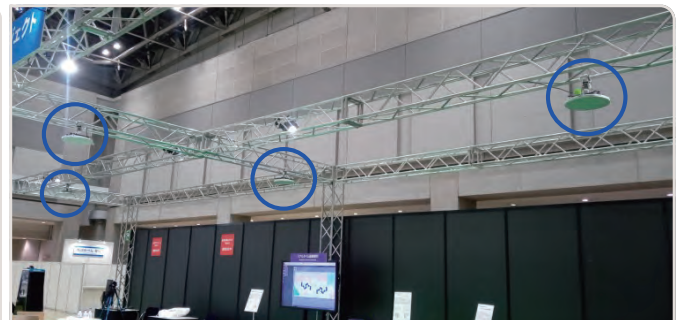
準備



**プローブ取得端末の設置**  
プローブ情報を取得したい範囲を定め、その空間を網羅できるように、複数箇所にプローブ取得端末を設置する

機器の設置位置  
電波範囲を色付けて表示 (個人情報取得はないがデータ計測を周知)

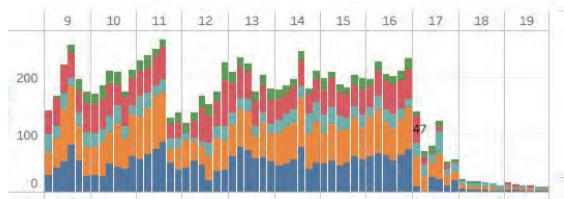
#### 2. Bluetoothベースの高精度測位技術(Quuppa)



**ブースや会場内への「ロケーター」の設置**  
動線解析を行いたい対象のブースや会場において、一定間隔で「ロケーター」を設置する

開催中

**来場者数増減のモニタリング、適宜入場制御等判断**  
Wi-Fiプローブ情報をもとにしたグラフ等により、会場内各所の来場者数の増減をモニタリングする。混雑箇所を特定したり、適宜の入場制御等の対応を行う際の判断材料として活用する



出展者のスタッフや来場者は、「専用タグ」を常時持った上で、商談やブース訪問等を実施



開催後

**次回開催時の会場設計、来場動線設計等に活用**  
Wi-Fiプローブ情報をもとにした滞在や回遊状況の可視化により、会場設計や来場動線設計等に活用する

**動線解析**  
「専用タグ」の動線を事後的に分析し、会場やブース内での展示物やスタッフ等のオペレーション改善の検討を行う



### 前提条件

- 内訳：●Wi-Fiプローブ：機器(10台)100万円～、分析・可視化50万円～  
●Quuppa(ブース内)：ロケーター(5台)100万円～、タグ(20台)13万円、分析・可視化40万円 ※工事費除く  
●Quuppa(会場全体)：ロケーター(20台)400万円～、タグ(500台)300万円、分析・可視化100万円 ※工事費除く
- 推奨通信環境：Wi-Fiプローブ(なし)、Quuppa(無線LAN(ライセンス認証時のみ利用))

### テクノロジーの価格感

Wi-Fiプローブ：150万円～  
Quuppa(ブース内)：200万円～  
Quuppa(会場全体)：950万円～

### 提供事業者

国際航業株式会社  
担当：畑  
メールアドレス：hisayuki\_hata@kk-grp.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

- 専門知識不要でお手軽にリアル会場のような展示空間をメタバース(3D)上に構築可能。
- 出展者と参加者とのコミュニケーションや参加者による自由な回遊など、臨場感のある体験を提供可能。
- リアル会場への来場が難しい参加者もリアルタイム参加可能で、地理的制約のないイベントを開催可能。

## 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<p>メタバースのみならず、参加者の事前登録フォームやWeb版イベントサイトの構築など、主催者はワンストップで展示会の開催が可能</p> 	 <p>出展者はテンプレートパターンを組合せてコンテンツをアップロードするだけ、CG制作不要で簡単に3Dブースの構築が可能</p>	<p>参加者は主催者準備のフォームから来場登録を実施</p> 
開催中	 	 <p>出展者・参加者間でテキスト/音声チャットを利用し、リアル会場のような双方向コミュニケーションをはかることが可能</p> <p>出展者はWeb講演会や録画済ビデオの配信が可能であり、マルチトラックにも対応</p>	<p>参加者は専用ソフトやアプリのダウンロードが不要のため、会社PCなどのブラウザから気軽に参加</p> <p>参加者はアバターで会場内を自由に散策、リアル会場のように新しい企業との出会いを増やせる</p> 
開催後	<p>主催者はイベント全体の、出展者は自社ブースにおける来場者の属性(所属・趣向など)や展示コンテンツへのアクセス履歴などを取得可能</p> <p>主催者は次回開催に向けたデータ分析、出展者は参加者へのアフターフォローが可能</p>		

## 前提条件

内訳：初期費用、ブース設営枠(250コマ、同数の講演枠を含む)、  
来場登録者枠(10,000人分)

- \* 通信環境構築費、展示コンテンツ制作費、ブース設営に係る人件費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。
- 推奨通信環境:無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)
- 推奨利用端末:PC(CPU: Core i5-7300U 2.70Ghz 以上, RAM: 8GB 以上, Chrome/Edge 最新版)

## テクノロジーの価格感

3,000万円

※目安額であるため、個別問い合わせ要

## 提供事業者

株式会社ジクウ

担当：事業統括部

メールアドレス：sales@ziku.inc



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用
		展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

## ～テレプレゼンスアバターロボット～

# 遠隔商談

### テクノロジーの概要

- 利用者はPCのwebブラウザから5G環境などに設置されたオンライン操作可能なテレプレゼンスアバターロボット(テレロボ)を介して、遠隔から展示会へ来場可能(ソフトウェアのインストール不要、専用URLを配布)。
- 遠隔来場者はテレロボや360度映像体験を介して会場内を見学や周遊し、出展者との商談を実施。
- これまで取りこぼしていたVIP来場者等に向けた集客アプローチ方法が増え、出展者満足度向上に寄与。

### 活用フロー

主催者	出展者	参加者
-----	-----	-----

#### 準備



多忙な国内/海外VIPや、その他現地展示会場に来場できない方に遠隔から参加してもらいたい



海外や遠隔地のバイヤーにもっとアピールしたい



現地展示会場には行けないけど、参加したい

#### VIP遠隔来場者が会場を周遊し商談を行う



参加者はテレロボに搭載した360度カメラ映像により、臨場感のある会場内周遊が可能

#### 開催中



参加者はテレロボを介して、出展者との商談を実施することが可能 ※オプションで通訳手配も

#### 開催後

テレロボにより遠隔参加者が見える化されるため、現地展示会場の活気向上や次回展示会への訪問意欲向上にも寄与

### 前提条件

内訳：テレロボ本体含む機器レンタル費、システム利用費、  
専門アテンドスタッフ費(利用期間3日間)

- \* 通信環境構築費、事前リハーサル費、スタッフ出張費は価格に含まない。
- 推奨通信環境：無線LAN(下り30Mbps、上り50Mbps以上)
- 推奨利用時間：1～2時間×3組/日(バッテリーの駆動可能時間の目安)

### テクノロジーの価格感

20-30万円/台

### 提供事業者

iPresence合同会社(共同企画：株式会社リコー、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター)  
メールアドレス：info@ipresence.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

～XRプラットフォーム～

## XRプラットフォーム交流

### テクノロジーの概要

- リアル参加者とオンライン参加者(アバター)の位置情報を共有し、それぞれの空間でリアルタイムに行動を反映。
- アバターモーションや感情アイコン、チャットなどでコミュニケーションが可能。
- リアル参加者目線の体験(映像や音声 等)をオンライン参加者に共有でき、体験価値の向上に寄与。

### 活用フロー

主催者	出展者	参加者
-----	-----	-----

#### 準備

- リアル会場は有線LANを敷設(内容によってオンライン会場のみ準備も可能)
- デジタルツイン会場(オンライン会場)を作るための会場の空間、テクスチャ等3Dデータの準備(データがない場合、測定・制作も対応可能)
- 必要に応じてオリジナルアバターデータを制作(2種類のデフォルトアバターは無償で利用可能)
- リアル側の体験(映像や音声 等)をオンライン参加者に共有する場合、配信者にiPadを配布もしくは会場内にiPadなどのカメラを設置



#### 開催中

リアル会場	オンライン会場
<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタルツインの会場であるため、オンラインとリアルが位置情報を共有することで、同じ場所を歩いている体験ができる</li> <li>● オンライン参加者をリアル空間上で、ARアバターとして行動を見ることができ、リアル空間側(主催者・出展者)からコミュニケーションを取る(接客をする)ことができる ※コミュニケーション: 移動、アバターモーション、感情アイコン、チャット、ブースごとのライブ配信</li> <li>● ライブ配信中は、オンライン参加者とリアル参加者間で音声チャットが可能になり、オンライン参加者からの相談や依頼などを受けることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PCやスマホから指定のURLにアクセスし、ログインするのみ(専用ソフトやアプリのダウンロードが不要)</li> <li>● オンライン参加者はリアル空間に参加している人の体験(映像や音声などの配信)を、空間を歩き、自分で選んで体験する事で、自分の欲しい情報を欲しい形で受け取ることができる</li> </ul>

#### 開催後

- オンライン空間利用時の参加者データやなどの収集が可能となり、次回の会議や展示会のマーケティングに活かすことができる

### 前提条件

内訳: MIC/初期制作費用、セミナー会場(10会場)、ブース制作費(50コマ)、リアル会場連携、サーバー・ライブ配信(3,000人×8時間分)  
E/初期制作費用、メイン会場(1会場)、ブース制作費(250コマ)、リアル会場連携、サーバー・ライブ配信(10,000人×10時間分※1時間×10回)

- \* バーチャル側のみ、リアル側のみ、参加人数や同時接続人数の内容によって見積もり変動あり。
- \* 空間・アバター3Dデータは主催者提供の上、ブースに関しては基本同一サイズを利用しテクスチャなどでイメージ変更対応の想定、リアル配信用のタブレットはレンタル想定、通信環境構築費・利用期間中のコンサル費・開催時におけるエンジニア対応・現地調整などの宿泊・交通費等は価格に含まない。
- 推奨通信環境: 有線LAN(10Mbps以上)

### テクノロジーの価格感

MIC: 5,000万円～  
E: 10,000万円～

### 提供事業者

株式会社ワントゥーテン  
担当: 事業推進 鈴木  
メールアドレス: t.suzuki@1-10.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光/視察支援、周辺サービス

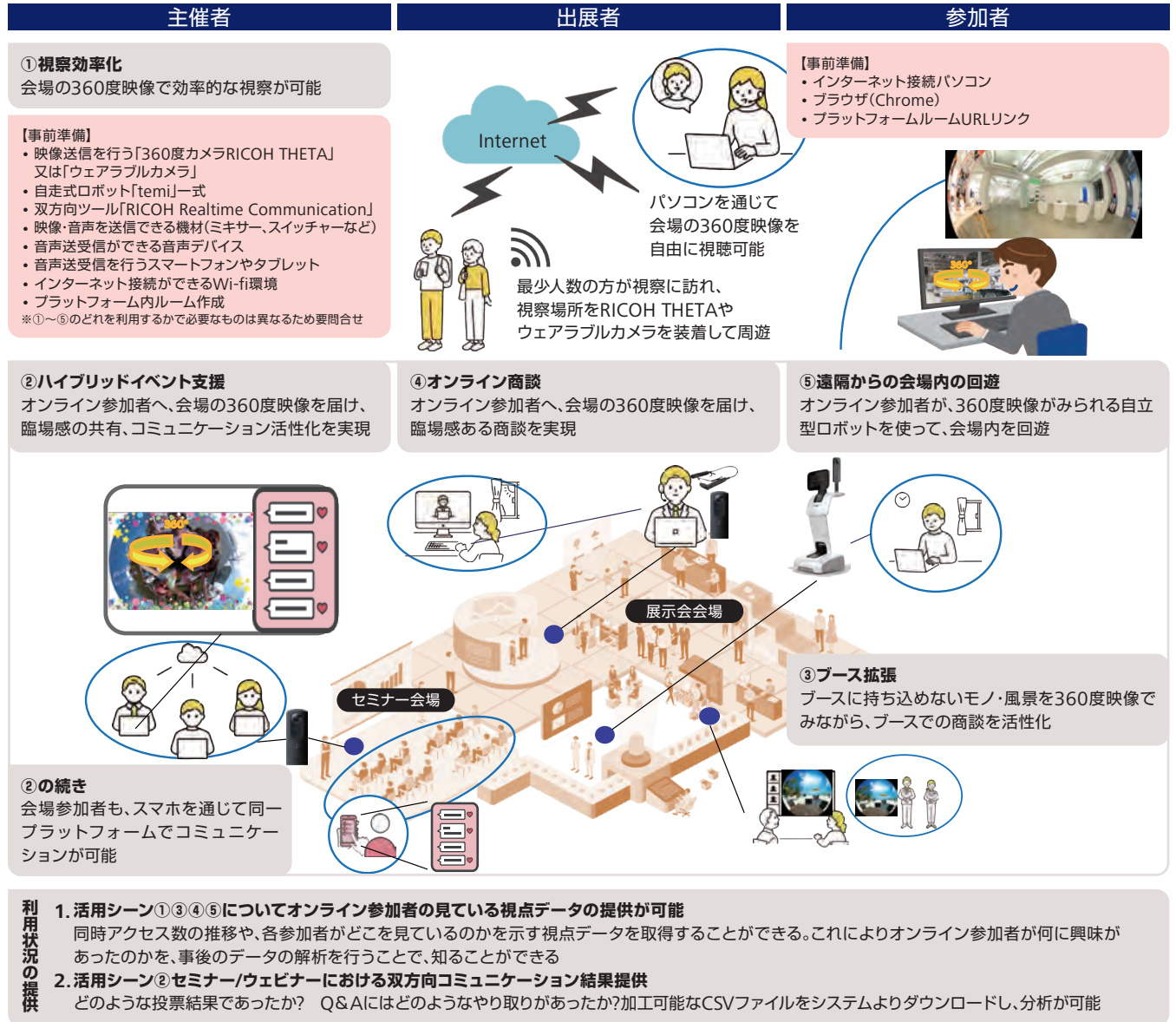
～リアルタイムコミュニケーションサービス～

## オンライン・リアル間のコミュニケーション

### テクノロジーの概要

- 360度高画質の映像・音声を、インターネットを介して送受信できるプラットフォーム。
- オンライン参加者が、リアル会場内を回遊したり、リアルのブースで臨場感ある商談を行うことなどが可能。
- チャット・投票ツール連携で、セミナー中リアルタイムでの投票・質疑等の双方向コミュニケーションが可能。

### 活用フロー



### 前提条件

- ① 内訳：初期費用、THETA×1台、ウェアラブルカメラレンタル×1台、準備期間中の人件費(2人日以内)  
\*通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、音声送受信デバイス等は価格に含まない。
- ② 内訳：初期費用、THETA×1台、準備期間中の人件費(3人日以内)  
\*通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、スイッチャー、音響装置、パソコン及びそれらのオペレーション費用は価格に含まない。
- ③④ 内訳：初期費用、THETA×1台、ウェアラブルカメラレンタル×1台、準備期間中の人件費(2人日以内)  
\*通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、ブース拡張先の音声送受信デバイス、ブース側の大画面表示装置、パソコン等は価格に含まない。
- ⑤ 内訳：初期費用、THETA×1台、temi×1台、準備期間中の人件費(2人日以内)、本番時の人件費(1人日)  
\*通信環境構築費、パソコン等は価格に含まない。  
●推奨通信環境：無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

### テクノロジーの価格感

- ① 45万円～ 上限接続数5拠点/日
- ② 120万円～オンライン・リアル参加：各200接続/セミナー(2.0H)
- ③④ 45万円～ 上限接続数5拠点/日/ブース
- ⑤ 85万円～ 上限接続数5拠点/日/台  
\*全て配信先1か所あたりの金額

### 提供事業者

リコージャパン株式会社  
 担当：スマートコミュニケーション企画センター MICE事業グループ  
 メールアドレス：zjc\_rcinfo@jp.ricoh.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

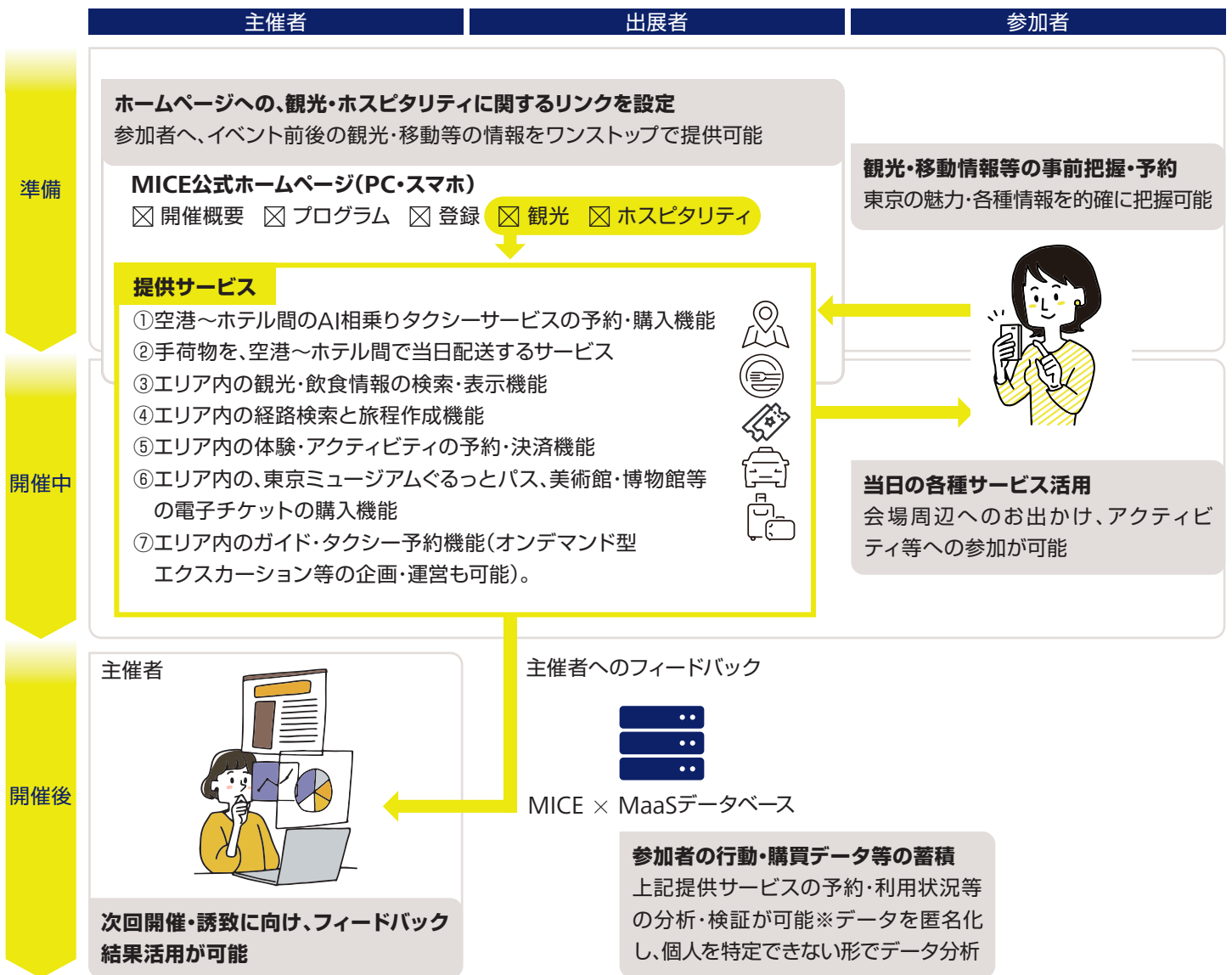
## ～MICE x MaaS: Tourism Platform Gateway (TPG)～

# MaaSプラットフォーム

### テクノロジーの概要

- 国内外から東京を訪れるMICE参加者が、スマホ1台で東京滞在を快適に、満喫できる観光DXサービス。
- MICEホームページ内に、イベント前後の観光・移動等の情報検索及び予約決済機能をワンストップで提供できるリンクが設置される。
- 開催後、データベースに蓄積された参加者の行動・購買データ等を匿名化して分析することで、次回開催に向けて活用可能なフィードバックが得られる。

### 活用フロー



### 前提条件

内訳：サービス利用料1か月分。催事規模やアクセス数によって金額は変わらないが利用期間によって金額は変わる。

- \* MICE公式ホームページ開設費用及びリンク設定費用、提供サービス⑤・⑥以外の購買・利用データの提供は価格に含まない。
- 推奨通信環境：特になし

### テクノロジーの価格感

1,500万円～

### 提供事業者

株式会社JTBコミュニケーションデザイン  
 担当：コーポレートソリューション部 黒岩  
 メールアドレス：micemaas@jtbcom.co.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 登録受付・会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

## ～極微細ミスト～ 空間演出

### テクノロジーの概要

- ぬれ感を感じにくい極微細シルキーファインミストとレーザー装置による映像演出、空間音響演出を組み合わせることで、これまでにないおもてなしを提供。
- リラックス空間を参加者に提供することで、会議や催し前の緊張を和らげる場、コミュニケーションの場として活用可能。
- 上記リラックス空間自体が周囲から見た美しいオブジェとして機能することでにぎわい創出にも貢献。

### 活用フロー

	主催者	参加者
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●直径3.6m高さ2.3mのドームを設置する空間の確保 ※会議会場以外でロビーや通路等。照明や外の光が直接入り込むような明るい場所は避け、調光などができる場所が望ましい</li> <li>●電源：単相100V15A×2</li> <li>●水道蛇口：一口</li> <li>●会場図面情報</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミスト機器、レーザー・照明ドーム、音響などの機材一式</li> <li>●マインドリセット空間のレイアウト図面などの情報</li> </ul> 
開催中	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マインドリセット空間を参加者が利用、また演出テーマが参加者の国地域に関するものとしておもてなし効果を発揮し、会場の顧客満足度の向上に寄与</li> <li>●設置期間中に対外アピールすることによる先進的取り組みによる主催者ブランド価値の向上に寄与</li> <li>●Well-beingの取組事例として、海外(国内含)参加者の集客効果向上に寄与</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MICE利用の間の休憩時間、開始前の準備時間でストレスなどの開放、集中への切り替え準備としてのマインドリセットを目的とした非日常空間の体験が可能</li> </ul> 
開催後	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施事例の発信による主催者ブランド価値向上に寄与</li> </ul>	

### 前提条件

内訳：リラックス空間1か所 利用期間：準備期間含め2週間以内(都内限定)

\* 期間中の運営に関する費用(機器の立上、終了。ドレン水などの排水、アロマ液などの補充、コンサル・エンジニア対応など)、夜間作業に伴う費用等は価格に含まない。  
専用演出コンテンツをご要望の際は、内容により製作費が変化するため別途協議。

- 推奨通信環境：不要
- その他：直径3.6m×高さ2.3mのドームを設置可能な空間

### テクノロジーの価格感

300万円

### 提供事業者

パナソニックコネクト株式会社

担当：パブリック営業本部

営業4部 営業1課 織田

メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

## このようなお悩みをお持ちの方は・・・(1/2)

### 事前登録・プログラム管理

プログラム作成や施設準備、出版印刷等の各種事務業務に係るコストが大きい。

#クラウドソフト #一元管理

**01** がオススメ!

論文査読プロセスは論文募集や査読のための研究者とのマッチング等、業務が煩雑。

### インフォメーション等

受付での入場証確認は時間を要し、いつも混雑。参加者をお待たせしてしまう。

#顔認証

**02** がオススメ!

入場受付の設置の人的コストが大きい。

#遠隔対応

**03** がオススメ!

インフォメーションセンターの会場案内の負荷が大きい。

#AI案内

**04** がオススメ!

### <主にM・I・C> 式典・レセプション

海外からの遠隔登壇において、旧来の映像出演では臨場感に欠けている。

#3D投影

**05** がオススメ!

### <主にC> セッション

海外からの参加者への言語対応にて、通訳の方を準備するコストが大きい。

#AI翻訳

**06** がオススメ!

## このようなお悩みをお持ちの方は・・・(2/2)

### 展示

大規模なMICEはブースや会議室の数が多く、わかりやすいマップを参加者に提供できていない。 #自律走行ロボット **07** がオススメ!

ブースや講演会など、一部の部屋で過度な混雑が発生している。 #画像認識 **08** がオススメ!

来場者の行動データなど開催時のデータ取得が出来ていない。 #人流解析 **09** がオススメ!

行動データを取得している場合でも分析方法が分からず、次回のMICEにデータを生かしていない。

オンライン会場が単なるWebサイトになり、魅力的な会場を構築できておらず、オンライン参加者数を増やすことが出来ていない。 #メタバース **10** がオススメ!

オンライン参加者はリアル会場の展示ブースを見ることが出来ず、臨場感に欠けている。 #テレロボ **11** がオススメ!

オンライン参加者とリアル参加者のコミュニケーションの機会や偶然の出会いを欠いている。 #XR **12** がオススメ!

#高画質カメラ **13** がオススメ!

### 観光／視察支援、周辺サービス

海外からの参加者に対し、何を案内すればよいのか分からない。 #MaaS **14** がオススメ!

十分な観光案内を提供できておらず、参加者の満足度を高めることができていない。

会場をおもてなしの場として活用しきれていない。 #空間演出 **15** がオススメ!

## 東京都次世代型MICE推進会議 メンバー

座長 … 稲田 修一（早稲田大学リサーチイノベーションセンター 教授）

坂本 和也（DMO六本木 事務局長）

津川 敦（一般社団法人日本イベント産業振興協会 専務理事）

藤 泰隆（一般社団法人日本コンベンション協会 事務局長）

南澤 孝太（慶應義塾大学メディアデザイン研究科 教授）

（五十音順、敬称略）

## TOKYO MICE テクノロジー導入ガイドライン

発行年：2023年1月

発行：公益財団法人 東京観光財団

〒162-0801

東京都新宿区山吹町346番地6 日新ビル6階

協力：東京都

### 問い合わせ先

公益財団法人 東京観光財団

コンベンション事業部

[businesssevents@tcvb.or.jp](mailto:businesssevents@tcvb.or.jp)

<https://businessseventstokyo.org/ja/>